

平成29年度 八幡湿原自然再生協議会議事録

平成30年3月11日（日）10時～
千代田中央公民館（北広島町有田）

【出席】

委員：中越信和、水田國康、野村春吉、白川勝信、内藤順一、佐久間智子、近藤紘史、
青木 晋、上野吉雄、大田実果、田坂素臣、中田隆一、宗岡泰昭、石谷正宇、
前垣壽男、西村浩美、大竹邦暁、齋 陽、平野 正、涌嶋 智、秋田 修
事務局：近藤貞治、村田博史

1 開会

（委員32名中21名出席）

2 挨拶【中越会長】

- ・自然再生事業について～根拠を持った自然再生事業が必要
類似の事業の中には根拠のない取り組みがみられる。かつての生態系を踏まえた自然再生を行う必要がある。
- ・協議会の役割～国が法整備したものの、目標達成には至っていない。
特に維持管理における財源確保が困難な状況で、環境省は、監督官庁のままであり、事業官庁の役割を担っていない。
- ・芸北一帯の景観保護が必要～霧ヶ谷湿原だけではなく、周辺を含めた景観保護
田園文化を保護する取組について、景観条例等の整備が県では遅れている。現在、東広島市の条例制定に向けた取組を前垣氏とともに展開している。
- ・協議会として、幅広い活動について協議を進めたい。
町や教育委員会への働きかけも必要である。

3 議題

(1) 事業報告①～④について、各会員及び事務局から報告された。

- ・詳細は各会員から提出された配付資料による。
活動報告から、自然再生地内で生物モニタリングや保全活動、自然観察会や環境教育が幅広く実施されていた。

(2) 自然再生協議会全国会議の報告（伊豆沼・内沼（宮城県栗原市ほか））

- ・昨年11月、宮城県栗原市で開催された全国会議に参加した。全体会議のあと現地調査が行われハスの繁殖問題（ハス刈船）や外来魚対策の視察を行った。印象として大きな資金で事業を実施していた。翌日、分科会が開催され、印象に残った取組みは真庭市のふるさと納税活用である。行政職員が地元企業を周り資金調達するというもの。【白川委員】

(3) 協議事項

- ① 普及・啓発部会 平成30年度活動計画（案）について、会員により承認された。
 - ・デッキ写真館プロジェクトを展開（SNSを使った、写真での霧ヶ谷湿原の魅力や情報の発信）するため、木道にQRコードの設置を計画している。設置にあたっては事務局や関係者と相談して実施する。【普及・啓発部会】

- ② 保全・管理部会 平成30年度活動計画（案）について、会員により承認された。
・年6回程度（プレシーズン2回・シーズンオフ4回）、湿原の保全作業を行う。内容は、灌木伐採、幹線導水路の浚渫・修復、副導水路の修復、幹線導水路の新設、小池設置、水路脇や下流域での盛土設置（漏水防止）。なお、作業には小型重機を使用する。これにより、2～3年をかけて、工事終了時（2009年）の景観を取り戻す。事業計画については、無理のないよう進行し、天候等により計画通り進行できない場合は、先送りするなど柔軟に対応する。【保全・管理部会】
- ③ 財政部会の設立について、会員により承認された。
・部会の人選や活動の具体内容について、書面や幹事会により詰めていきたい。
- ④ 今後の部会の活動について、協議会が足かせとならないよう、ある程度、活動は両部会に任せたい。また、適時の活動については、幹事会で報告・連携しながら実施すること。なお、年間の活動は、年度末の協議会で報告するようお願いをする。【中越会長】

5 閉会

平成30年3月26日（月曜日）

確認者 八幡湿原自然再生協議会 会長 中越信和
八幡湿原自然再生協議会 委員 秋田 修
（広島県環境県民局 自然環境課 課長）
作成者 八幡湿原自然再生協議会事務局 村田博史
（広島県環境県民局 自然環境課）